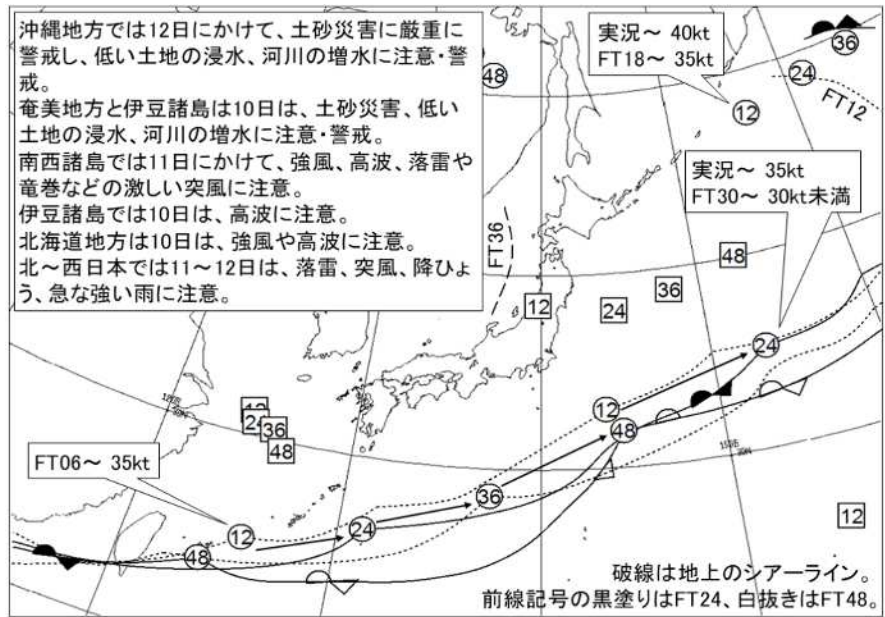


1. 実況上の着目点

- ① 500hPaの正渦度帯に沿って、南西諸島から日本の南に梅雨前線が停滞。
- ② 500hPa 5820m付近のトラフに対応して、日本の南の前線上に低気圧があって東北東進。
- ③ 先島諸島付近の前線上で低気圧が顕在化。低気圧の周辺や前線付近で激しい雨を解析し、発雷を検知。
- ④ 500hPa 5640～5700mの寒気を伴うトラフに対応して、日本海の低気圧が東進。周辺では活発に発雷。



主要じょう乱解説図

- ⑤ 寒冷渦に対応する低気圧が千島近海を東北東進。北海道地方では3m程度の高波を観測。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、12日にかけて徐々に南下し、その後停滞。1項②の日本の南の低気圧は、速度を上げながら前線上を東北東進。1項③の先島諸島付近の低気圧は、11日朝にかけて沖縄近海の前線上を東北東進し、その後日本の南へ進む。これらの低気圧や前線に流れ込む850hPa 相当温位345K以上の下層暖湿気により大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降る所がある。沖縄地方では12日にかけて、土砂災害に厳重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。奄美地方と伊豆諸島は10日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。また、南西諸島では11日にかけて、強風、高波、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。伊豆諸島では10日は、高波に注意。
- ② 1項⑤の千島近海の低気圧は次第に遠ざかるが、北海道地方は10日は、強風や高波に注意。
- ③ 500hPa 5640～5760mのトラフが11日から12日にかけて北～西日本を通過。短波のトラフ通過に伴って、北日本は-18℃以下、東～西日本は-15℃以下の上層寒気が断続的に流れ込む。1項④の日本海の低気圧が11日にかけて東進しその後不明瞭化した後、南北に連なる気圧の谷が北～東日本を通過するとともに、日本の東に中心を持つ高気圧から下層暖湿気が北～東日本の太平洋側に流れ込む。北～東日本を中心に西日本にかけて、大気の状態が不安定となり、日中の昇温によって対流雲が発達する所がある。北～西日本では11～12日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の前線上の低気圧の位置や発達程度は不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間)：沖縄100mm。
- ② 波浪(明日まで)：沖縄4、北海道・伊豆諸島3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。